

## 論文概要

背景: CLABSI は医療関連感染症の中で最も一般的であり、在院日数の延長、死亡率の上昇、医療費の増加と関連している。米国では中心静脈栄養の発展とともに CLABSI などの合併症を抑制する必要性などもあり、NST が設立された。日本でも日本栄養治療学会のイニシアチブにより NST が普及し、2010 年の診療報酬改定で NST 加算が設けられた。本研究では、COVID-19 パンデミック前後における NST の CLABSI 予防効果を検討した。

方法: 2019 年 1 月から 2021 年 12 月までの期間に、CLABSI と診断された入院患者を後ろ向きに分析した。NST 加算の有無と CLABSI 発生率を調査し、群間比較を行った。CLABSI 発生率は該当期間の 1000 カテーテル使用日数あたりで比較した。

### 結果:

参加登録 47 施設のうち、NST 加算あり群 34 施設、なし群 13 施設

3 年間の CLABSI 発生率は、NST 加算あり群で有意に低値 (0.96 [0.28-1.73] vs 1.25 [0.75-6.10],  $p < 0.05$ )

パンデミック前の CLABSI 発生率は、NST 加算あり群で低値 (2019 年: 0.70 [0.12-1.26] vs 2.10 [0.62-5.97])

パンデミック期も、NST 加算あり群の CLABSI 発生率は低く維持

考察: パンデミック期の CLABSI 発生率が NST 加算あり群で低かったことは、CLABSI の予防における NST の有効性を示している。NST 加算あり群では、CLABSI 予防マニュアルの文書化や無菌調製実施体制の整備が、CLABSI 発生抑制に寄与した可能性がある。

コメント: 本研究は JSPEN 薬剤師部会主導の多施設共同研究として実施された。多職種協働の医療チームとしての NST の意義を、感染管理の観点から実証的に示した価値ある研究である。特に COVID-19 パンデミック期において、NST 加算取得施設で CLABSI 発生率が低く維持されていたことは、NST による継続的な栄養管理と感染対策の重要性を示唆している。ただし、後ろ向き観察研究であり、CLABSI 発生に影響を与える交絡因子を完全には調整できていない点に留意が必要である。感染制御チームと NST の連携を強化し、さらなる医療の質向上を目指す必要性を示した意義深い研究と考えられる。最後に本研究に協力いただきました多くの JSPEN 薬剤師会員に深くお礼を申し上げたい。